



7/25

地域を代表する神輿9基、山車6基が一堂に会し、その勇壮な姿に日本の伝統文化を感じる「ふるさとまつり連合渡御」。今年で18回目を迎えました。
メイン会場の市役所千代川庁舎周辺には、熱く活気ある雰囲気に見る人すべてが魅了されました。

ふるさとまつり連合渡御

地域農業の振興・担い手育成

地域農業のリーダー役を担う茨城県農業三士 新たに農業経営士と女性農業士に2人が認定

地域農業のリーダー役を担う農業経営士など「茨城県農業三士」の平成27年度認定式が7月13日、水戸市の茨城県市町村会館で行われました。

本市から新たに認定されたのは、農業経営士に中里一秀さん(村岡)、女性農業士に中里真由美さん(村岡)の2人。市内で活躍する県農業三士は、農業経営士が5人、女性農業士が3人、青年農業士が4人となり、今後、地域農業のリーダーとして後継者の確保と育成、農業の活性化に取り組みます。

メロン、水菜、白菜などを手掛ける農業経営士の中里一秀さんは「子どもたちに対して魅力ある農業を経営していきたい」。チンゲン菜、白菜、レタスなど手掛ける女性農業士の中里真由美さんは「農業を就職先として考えてもらえるよう、収穫の喜びなどやりがいを伝えていきたい」と力強く抱負を語りました。



県農業経営士・中里一秀さん(左)、県女性農業士・中里真由美さん(右)

都市間交流

「浦安市環境フェア」で本市の環境への取り組みをPR

体験・参加型のイベントを通して、楽しく環境について学び、暮らしの中での環境保全について考える「第18回浦安市環境フェア」が6月28日、JR京葉線の新浦安駅前広場で開催され、大規模災害時の相互応援協定で交流がある本市も出展しました。

本市の出展ブースでは、下妻市民が制作した下妻市オリジナルのカルタ「しもつま環境カルタ」と、NPO法人アークキャンプにより砂沼で野生復帰の取り組みが行われている水草「コシガヤホシクサ」をPRしました。

浦安市民からは「野生復帰は大変そうですが、頑張ってください」と励ましの声がありました。

また、同会場で下妻産の野菜や梨ドレッシング等の特産品を販売したところ、「下妻の野菜は新鮮でおいしそう」などと好評でした。



浦安市民にコシガヤホシクサの野生復帰の取り組みをPRする市職員

市民協働・環境美化

いつまでも安全できれいな川になるように「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」を実施

ふるさとの鬼怒川・小貝川がいつまでも安全できれいな川になるように、「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」が7月11日の早朝、市内24か所で実施されました。

本市からは、河川周辺の自治会、老人会、子ども会などを中心に97団体から約1,800人が参加。熱心にゴミ拾いをした子どもたちは「頑張って、いっぱい拾ったよ」と話し、回収された空き缶などのごみは約28立方メートルにもなりました。

このクリーン大作戦は、河川愛護月間の7月第2土曜日を統一日として、堤防や河川敷に投棄されたごみを一掃する取り組みで、鬼怒川・小貝川の流域24市町と茨城県、栃木県、国土交通省下館河川事務所などで構成する「鬼怒川・小貝川流域ネットワーク会議」が主催。今年で25回目となりました。



堤防周辺のゴミ拾いをする参加者たち(小貝川右岸・大園木地区)

人権啓発・地域連携

「社会を明るくする運動」をPR 街頭キャンペーンを実施

法務省主催の「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない安心で安全な地域社会を築こうとする全国的な活動として、今年で65回を迎えました。

市では、この運動の趣旨を市民の皆さんに広く知ってもらうため、7月7日に市内ショッピングセンター3か所で街頭キャンペーンを実施しました。

第65回「社会を明るくする運動」下妻市推進委員会の委員長である稲葉市長は、開会式で「犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更生に理解を深め、力を合わせて犯罪や非行のない明るい地域社会を築くということが、ますます重要となっている」とあいさつ。同委員会を構成する更生保護、福祉、教育などの10団体から約60名が参加し、買い物帰りの方にリーフレットや啓発品などを配布しながら運動の趣旨を説明し、広報活動を行いました。



買い物客などに声を掛け、啓発活動を行う推進委員